

日時 2月13日(月)
講座の内容 講義、実践交流、まとめ



(1)講義

「令和4年度全国学力・学習状況調査結果から見える亀岡市の特徴と課題」

◎講師 学力向上アドバイザー
広島経済大学教養学部
准教授 前馬 優策 氏

児童生徒質問紙の回答傾向

○ICTの活用が進んだことが明確(R3との比較から)
○地域の行事への参加が亀岡市の特徴(良い)
◆小中共通の課題
・家庭生活:テレビ、ゲーム、スマホ
・休日の勉強時間
・教科で学んだことを生かして自分の考えをまとめる、学習したことを見直して次の学習につなげる、自分から取り組む、工夫すること、など。
→学習の展開、深化に課題

校種別の課題

- ◆小学校の課題
 - ・朝食に代表される生活習慣の改善
 - ・読書が好きな子どもが全国と比べて少ない。
 - ・学校が楽しいと思う子供が全国と比べて少ない。
- ◆中学校の課題
 - ・総合的な学習の時間での調べ学習や発表の取組

まとめ

○質問紙の結果を見ると、全国の数値をやや下回るものが多い。
○学力との関連で言えば、家庭生活、休日の勉強といった課題が浮かび上がった。
○また、授業での学びを一步深めて考えたり、自分から取り組んだりするような、学習の深化や発展に対して、伸びる余地があると考えられる。
○小学校では、朝食、読書、学校の楽しさといった課題も見られた。

(2)実践交流

学力向上対策実践集
(全校の実践)
をもとに交流を行いました。

- ・ワクワク交流会
- ・保護者向け研究だより
- ・逆向き設計の意識
- ・ユニット研究
- ・単元デザイン
- ・QUアンケートの活用
- ・自主学習 S1 グランプリ 等々



子どもと先生方の Well-being
～学力は必ず後からついてくる～

◎指導助言
学力向上アドバイザー
京都教育大学大学院
教授 佐古 清 氏

エビデンスを基にした
分析の必要性

データ分析

先生方の実感

令和5年度に向けて

- フィードバックを有効に
- 交流や学びの場をどう充実させるか
- スクラップするものも必要
- 組織体制の見直し
- 力のある先生が埋もれてないか?
- 共有するデータは何にするか?

<参加者の感想>

学力向上の取組を1年間振り返ったときに、校内をリードするような取組や活動ができていなかったことを痛感しました。今回、他校の実践を見せていただく中で、組織立てた中に、様々な取組をされていました。教職員が前向きに取り組めるようなことを考えていくこと、組織を見直し、全体で共有できるような内容を考えていきたい。授業での学びを自分から発展させていくような伸びる余地があると知りました。学校での学びと家庭学習へのつなぎ方も今後の学力向上取組の一つであろう。

家庭学習

夏に引き続き、前馬先生の学調の分析が聞けて、大変ありがたかったです。R4結果分析も気になっていたので、早速校内で報告します。学校としてどのように家庭での学習を充実させるのか、また家庭学習に取り組みたくなるような授業の改善を考えていきたい。

授業改善

分析による特徴と課題を明確に教えていただいたことを自校で伝達していきたい。また、データや先生方の実感をすり合わせた分析をもとに、取組・実態を便りなどで家庭や地域に発信し、家庭や地域を巻き込んだ取組を考えていきたい。

家庭へ 地域へ

教職員全員が楽しめたり、ワクワクできるような研究推進を進めていきたい。教員が前向きに研究に取り組むことができれば、自然と子どもたちも前向きに学習に取り組めると強く思います。

先生がワクワクと!

各種調査における亀岡市の分析、各校の実践交流、もっと聞きたい、話したいというとても充実した時間になった。今日だけでなくシリーズを通して、特に他校種、中学校の先生と実践や考えを交流することはとても貴重な機会である。校内でも広げていきます。

R4全国学調の結果分析を聞くことができよかった。特に家庭学習の定着と学習内容の深化、総合的な学習の時間の充実を来年度進めていくべきであるという根拠を得ることができたので、来年度学習指導部を中心に考えていきます。

亀岡市の学力向上へ

各校の実践報告は、参考になる取組が多く記されていた。しっかり目を通し、各校の取組の良さを学びたい。自校の学力向上はもちろん、亀岡市としての学力向上という視野をもち、日々の取組に励みたい